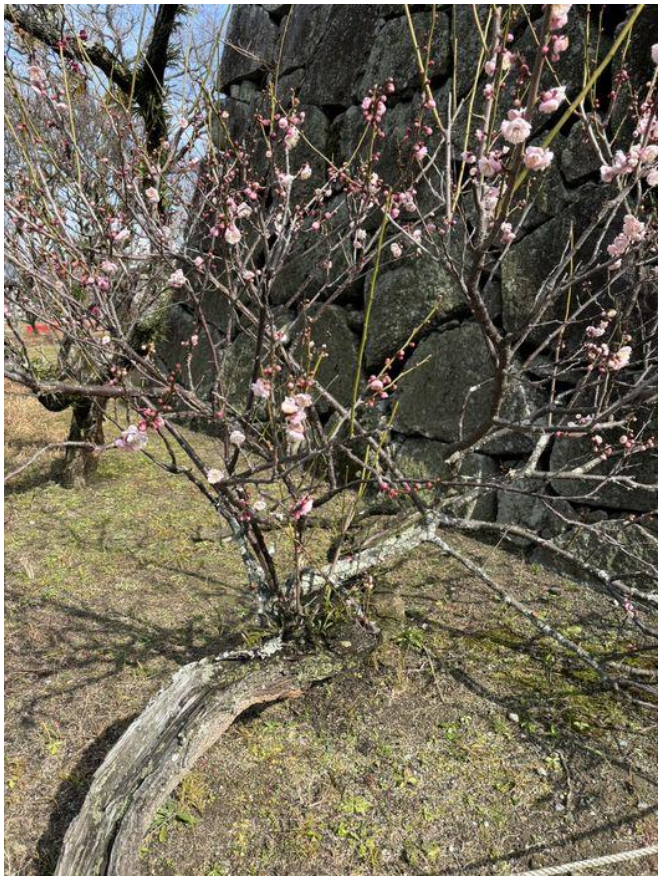
Date :2024年2月3日

No.93　人間の寿命
生き延びる知恵



老梅　2月4日 舞鶴公園にて

昨年父が97歳で亡くなりました。
普通なら天寿を全うしたと言われる年齢かもしれませんが、頭はクリアで直前まで温泉に行くなど元気でしたので家族や親戚には驚きでした。内視鏡検査で見つかった大腸癌の外科手術を受けなければもっと長生きしただろうと思うと、正直悔やまれる気持ちは拭えません。

元気な人の生命の火が消える時、肉体と精神はどうなるのだろうと考えてしまいます。認知症はある意味幸せな終末を迎えるための神様の贈り物かもしれませんが、父は認知症と無縁で日々の出来事をしっかりメモに残し、言葉は明確でした。ベッドで最後まで何か言おうとしていましたが、最期の二日間私はついに聞き取ることができませんでした。

谷口博文の政策イノベーション

Date :2024年2月3日

今いる親に長生きしてもらうには、とにかくストレスなく日常生活を送れる環境を作ることが大事だと思っています。
これまでの延長線上にこれからの毎日の生活がある・・・でもこれは私がこれまで言ってきたことは真逆です。
生き残るには環境の変化に合わせて自分を変えることが大事だと。

人も組織も厳しい競争環境の中で自分を変えないままならば競争に負けるだろうと思います。
しかし生きるために競い合う必要のない世界にいられるのならそのままでいい。
でも個体として神に与えられた時間は限られています。
種として、あるいは組織としての生き残りはどうなのだろう。
神様は競争のある世界で生き延びる知恵を与えてくれたように思えますが、競争のない世界も創られたのだろうか・・・